

不二健育会 特別養護老人ホーム ケアポート板橋

アイソン シーナ グレイス マネ克蘭(介護福祉士/特養4階)

功 績 EPA介護福祉士候補生として平成30年に来日。「合格するまでは母国に帰国しない」と強い思いを持った彼女は、介護業務と日本語学習、そして国試対策を地道に続け、見事第34回介護福祉士国家試験にストレート合格致しました。jicwels(国際構成事業団)より、「合格体験談」と執筆の依頼を受け、全国の中からフィリピン代表として、来年介護福祉士を受験するEPA介護福祉士候補生に対し、学習計画のアドバイスやメンタル面の持ち方などを堂々と発表し、同じ夢を目指す後輩達の手本となることができた功績。

推 薦 者 小西誠之(特養/介護主任)

推 薦 理 由 全く日本語が分からない中、来日前後の1年間の日本語研修を経て、ケアポート板橋に配属されました。ご利用者や職員とのコミュニケーションに悩む日々もありましたが、「夢を叶える」という彼女の信念と努力が、合格という結果に繋がったのだと思います。また、全国の中でも各国1名しか選ばれない「合格体験談」に推薦頂き、見事その役割を熟したことは、候補生の参考となったみならず自己の自信にも繋がると考えます。彼女の功績は理事長賞に相応しいと評価し、推薦させていただきます。

内 容

シーナとの出逢いは、平成29年7月、第10陣のフィリピン現地説明会でした。母国では4年大学にて理学療法士の資格を取得し、1年間病院にて勤務。以前より日本への憧れがあり、ようやくエントリーすることができたそうです。総数約300名、当時は日本からのブース展開も急激に増加した時期であり、また候補者としても、なかなかマッチングすることが難しい状況が続いておりました。

日本で人と関わる仕事をしたいと強い熱意を持ち、教育体制や取り組みに感銘を受け、ケアポート板橋を第一希望として選んでくれました。

現地半年間、来日し半年間、計1年間の日本語学習を経て、2018年12月に入職。特養にて多忙な介護業務をこなしながら、週1日8時間の日本語学習、毎日の課題をクリアしながら、介護福祉士合格に向け、休日も学習に励みました。彼女は「介護福祉士に合格するまで、帰国せず頑張る」と心に決めており、ホームシックや業務に悩み、涙することもありましたが、先輩やプリセプターであるEPA介護福祉士の支えもあり、見事ストレートで介護福祉士に合格することができました。

またJicwels(国際厚生事業団)より全国の合格者の中から、代表として推薦され、来年度国家試験に向かう全国の後輩達へ、執筆及び合格者インタビューアールとして、数百人の前でその任務を堂々と熟してくれました。

第34回の介護福祉士国家試験の合格率は72.3%。中でもフィリピンEPA介護福祉士候補者の合格率は35.4%と難関です。多忙な業務、日本語の勉強、そして国試対策とこの3年間、本当に彼女は全力で臨みました。日本人にとってもこのポテンシャルは日本人の勇気にも繋がりました。